

首都高の上に展開するのは宮崎アニメのような世界



庭園の端っこに行くと目黒区の住宅街が「天空から眺める地上風景」のように見渡せる

日本各地に現存する有名無名の優れた建物たちを、旅や散歩の途次に訪ねるシリーズ『日本列島隅々巡り《建物たちとの遭遇》』。今回は建物そのものより、建物を取り囲む風景に焦点を当てて取り上げてみたい。その、建物を取り囲む風景とは、首都高速道路上に築かれた《目黒天空庭園》だ。

2013（平成25）年に竣工した目黒天空庭園は、前述のように首都高速道路の上に建設された庭園、正確には首都高速と山手トンネルを結んでいる大橋ジャンクションの屋上に乗っかっている。

そこ上がるとまさに、名称通り、宮崎駿監督の名作アニメ『天空の城ラピュタ』に出てくる空中庭園とも見まがう光景が展開しているのだ。ここを訪れる者は「明らかに地面とくっついていない庭が目の前にある」という、一種の浮遊感に捉えられることだろう。

その浮遊感の秘密は何かと考えつつ、庭園の隅々まで歩いて気付くのは、地上から延びてきているタワーマンションを取り囲む庭全体が、異形感たっぷりの微妙にうねうねとしたコブ状の小さな丘の連続に覆われていることだ。

まっすぐとは歩けない、その天空の地面の様相が、平衡感覚を常に刺激してくる（ちよつとずつ狂わせてくる）。しかし、その感覚は決して不快ではなく、けれども、非日常的な気分へと、歩行者を誘わずにはおかない感じなのだ。

別の言い方をすれば「クセになる歪さ」に覆われている。筆者は何度行っても、その感覚から抜け出せず、結果ハマっている。

しかし、そんな感想は特殊なのかもしれない。なにしろこの目黒天空庭園は、竣工の年に早速、グッドデザイン賞や国土交通大臣賞などを次々受賞しているように、世間的には「しごくまっとうな公園」らしいのだ。

いや、そんなはずはない、という気分を楽しみつつ、筆者は今日も目黒天空庭園で非日常的な浮遊感を楽しんでいる。（未知草）